

『大田区』 スクリプト

その1

- N: 東京都にある23の区の中で、いちばん大きいのがここ大田区です。多摩川に沿ってひろがり、また 東京湾に面している大田区には、さまざまな顔があります。例えば高級住宅がたくさんある田園調布、町工場がある蒲田や大森、それから羽田空港も大田区の中にあります。今日は大田区の歴史や文化、産業などいろいろなことをみなさんに紹介したいと思います。
- N: 東京都には多摩川という大きな川があり、大田区はその下流に位置しています。下流では大雨が降ると洪水がおこって被害を受けることが多かったため、ここ大田区では、全国的にも珍しい、雨を止めるためのお祭りが鎌倉時代からずっとおこなわれています。このお祭りは「水止舞 (すいしまい)」とって、大田区大森の厳正寺というところで毎年7月におこなわれます。
- N: この二人の男性は、雨を降らせる龍をあらわしています。水をかけられながらお寺に運ばれていきます。手に持って吹いているのは、ほら貝というものです。この音も、龍の声をあらわしているのかもしれませんが。
- N: お寺に運ばれると、龍を巻いていた藁がほどかれます。そして、今度は舞台上で舞がはじまります。この舞は、牡丹の花の中で雄の獅子、雌の獅子、若い獅子の三匹が踊る様子をあらわしています。大人から子どもまで、色んな人が参加していますね。地域の人みんなで、伝統あるお祭りを伝えている様子がよくわかります。

その2

- N: 学校のお昼休み、ちょっとみんなのお昼ご飯をのぞいてみましょう。おいしそうなおむすびですね。この人はのり弁当です。日本人の食生活にのりは欠かせません。のりは、実は東京でも作られていたんですよ。そして全国ののり産業の中心になっていたのが、大田区の大森というところですよ。
- N: これは江戸、つまり昔の東京の様子を描いたものです。のりを作っている人たちがいます。このあたりが今の大田区なんですよ。
- N: 海苔はこのような道具を使ってつくっていました。これは実際に使われていた道具です。今は工場などが多くなって、もう大田区では海苔は作られていません。でも、海苔産業が発展したことは、今の大田区の基礎になったといえます。

その3

- N: 今の大田区の産業は、一言でいえば「ものづくり」。機械だけではなく、職人さんの技術に支えられて、たくさんの製品がつくられています。機械はなんでもできそうに思いますが、実は人の手でないとできないことがたくさんあるんですよ。そしてその中心となるのが町工場です。これはテクノウイングという、大田区が作った施設です。この中にたくさんの工場が入っていて、日々たくさんの製品を作り出しています。また「大田工学会」など町ぐるみでものづくりを推進する団体もあります。大田区の町工場は、日本だけでなく、世界の最先端技術を支えています。ロケットや医療技術だけでなく、みなさんの身の回りの便利な生活そのものも、大田区の技術に支えられているかもしれませんね。
- N: 大田区はほんとうに広く、今紹介したのも、大田区の一部にすぎません。まだまだ新しい魅力が発見できそうですね。